

ODA

発行 社会福祉法人 沖縄県身体障害者福祉協会
編集 沖縄県障害者社会参加推進センター
〒901-0516 沖縄県島尻郡八重瀬町字仲座 1038 番地 1
TEL(098)851-3455 FAX(098)851-3855
ホームページアドレス <https://www.okisin.jp>
E メールアドレス okisinky@blue.ocn.ne.jp
頒価一部 100 円 (会費に含まれています)

沖縄県障害者社会参加推進センターだより 第 74 号

ごあいさつ

沖縄県障害者社会参加推進協議会 会長 山城充正

令和 8 年度のスタートにあたり、ごあいさつを申し上げます。

日頃より、沖縄県障害者社会参加推進センターの事業推進にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。



当センターでは、障害のある方々の多様な暮らしを実現するため、地域や関係団体と連携しながら、さまざまな事業を展開し、障害者の社会参加と自立生活の促進に努めております。

近年、私たちの社会では、インクルーシブ社会の実現に向けた取り組みが進んでおり、障害の有無にかかわらず、誰もが地域社会で共に暮らし、活動できる環境づくりが求められています。沖縄県障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会条例に基づき、誰もが安心して暮らせる社会を目指し、障害当事者による啓発活動や県民の正しい理解を深めることが重要です。

当センターでは、障害者の社会参加を推進するため、皆さまや関係団体と連携しながら、諸施策の充実やスポーツ・文化芸術活動を通じた組織強化・育成を図り、障害福祉のさらなる向上を目指して取り組んでまいりますので、引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今後の障害福祉の発展と皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げ、挨拶といたします。



沖縄県障害者社会参加推進協議会

令和 8 年 6 月 2 9 日 (月)、沖縄県総合福祉センターにおいて、本年度初となる『沖縄県障害者社会参加推進協議会』を開催しました。本会議は、行政と民間団体が緊密に連携し、誰もが自分らしく暮らせる共生社会の実現に向けた対話を深めることを目的としております。



主な議題として『沖縄県共生社会づくり条例』の見直しに関するアンケート結果が報告され、現行制度の課題と県民の切実なニーズが共有されました。

また『高次脳機能障害者支援法』の施行に合わせ、県内における新たな支援体制の整備状況についても詳細な説明が行われました。



さらに、沖縄県建築士会によるバリアフリー調査や、県立図書館の読書支援サービスの紹介など、ハード・ソフト両面からの先進的な取り組みが示されました。

各委員からは、離島や過疎地域における支援格差の是正、聴覚障害者への情報保障の徹底など、現場に即した具体的な要望が相次ぎ、活発な議論が交わされました。

令和7年度 沖縄県障害者社会参加推進センター 事業報告

【社会参加支援】

1. 沖縄県障害者社会参加推進センター運営

障害者が自立した生活を営むことができるよう、県及び市町村地域生活支援事業の実施・協力、各種団体の活動支援を実施した。

(1) 沖縄県社会参加推進協議会及び専門部会

センター事業の企画立案等のため、行政機関、身体、知的及び精神障害者団体により構成する協議会を実施した。

(2) 障害者110番事業

障害者及びその家族等の抱える人権問題及び生活支援等の各種相談に専任相談員が対応するとともに必要に応じて専門機関を紹介した。

【日常生活支援】

1. 音声機能障害者発声訓練



疾病等により喉頭を摘出し、音声機能を喪失した方々向けに、食道発声訓練等を毎月4～5回行い、延べ344名が参加。

2. オストメイト社会適応訓練



病気や障害が原因でストーマを増設した方々向けに毎月、北中南部それぞれの地区で装具の取扱い等について学んだ。延べ249名が参加。

3. 中途視覚障害者歩行訓練

沖縄県視覚障害者福祉協会の協力のもと、在宅の中途視覚障害者に対し、訪問による日常生活上必要な歩行訓練。延べ45名が参加。

【芸術文化活動】

1. 第65回沖縄県身体障害者福祉展

令和7年11月25日（火）～30日（日）、南風原町立南風原文化センターにて、芸術作品279点の展示を行なった。来場者は596名。



沖縄県視覚障害者福祉協会

オカリナ教室

視覚障害者による結成26年のオカリナ教室です。歌謡曲、民謡、唱歌、ドラマのテーマソングなど、約100曲のレパートリーを持ち、沖縄県障害者社会参加促進事業の一環として活動しています。スタート時は4名から始まり、現在は12名の仲間が集い、第1・第3木曜日に沖縄視覚障害者福祉センターで活動しています。練習ではまず曲をよく聴き、そのあと階名唱を覚え、楽器の練習を重ねていきます。



一人ひとりのペースを大切にしながら取り組むうちに、「ボケなくなった」「長く息を吐けるようになった」など、物忘れ予防や呼吸の面でのうれしい変化を感じる声も聞かれます。

コロナ前までは、老人ホームや幼稚園、地域のお祭りに招かれて演奏し、世代をこえた交流の場になってきました。現在は活動の形を変え、年に2回のお楽しみ会を開き、日頃の練習の成果を仲間同士で味わっています。何よりも、仲間と一緒にオカリナを練習する時間が楽しく、笑い声の絶えない教室です。音楽を通して、心も体もいきいきと過ごしたい方の参加をお待ちしています。

沖縄県友声会

音声機能障害者発声訓練及び個人指導・相談（発声塾）

喉頭がん、咽頭がん、舌がん、食道がん、甲状腺がん等による喉頭全摘方で音声機能障がいの方を対象とした【発声訓練・個人指導等】です。

開催日時	開催場所
毎週土曜日 (14:00～16:00)	サン・アビリティーズうらそえ (浦添市宮城4-11-1)

【問い合わせ先】

・社会福祉法人 沖縄県身体障害者福祉協会
TEL：098-851-3455
携帯：090-8294-2290（比嘉）
E-mail：taiki10@okisin.jp

沖縄県友声会ホームページ →



沖縄県立図書館



沖縄県立図書館では、誰でも読書を楽しめるように様々なサービスを提供しています。ぜひ、あなたに合った方法で、図書館をご活用ください。



【いろいろな形の本】

『点字図書』や『大活字本』『LL ブック』などがございます。その他、読書をサポートする道具も揃えています。

【デージー図書等貸出サービス】

活字による読書が困難な方に、音声で読書を楽しめる『デージー図書』を貸し出しています。

【来館困難者資料郵送サービス】

来館が難しい方を対象に、無料で資料の郵送サービスを行っています。

【施設のバリアフリー】

館内には、バリアフリースイレや点字ブロック、エレベーター、貸出用の車いすなどを完備しており、安心してお過ごしいただけます。

【一括貸出】

地域の公民館や福祉施設などを対象に、最大 500 冊の本を長期間貸し出しする『一括貸出サービス』を行っております。離島地域の施設様もご利用いただけます。

県立図書館の
障がい者サービス



一括貸出について



<お問合せ>

沖縄県立図書館 ☎ 098-894-5858

9:00~20:00（火曜休館）

沖縄県精神保健福祉会

パラスポーツ『ボッチャ』

『ボッチャ』というスポーツをご存じでしょうか。老若男女、障がいの有無を問わず楽しむことのできる球技で、パラリンピックの公式種目でもあります。チームに分かれて何度かボールを投げたり転がしたりして、ジャックボール（目標球）により近いボールを投げたチームに得点が入ります。ルールとしてはカーリングに近いかもしれません。

令和 8 年 7 月 5 日（日）には、イオン南風原店にて『イオン de パラスポ』というパラスポーツのイベントが開催され、ボッチャの体験会とボッチャセットの贈呈式が行なわれました。今年は私たち沖縄福連の運営する就労支援事業所『てるしのワークセンター』（南風原町）が、ボッチャ用具 2 セットの贈呈を受けました。

実は南風原町では、障がい者事業所対抗のボッチャ大会が、町の主催で毎年開催されています。ルールは独自にアレンジされており、町の名産品のカボチャにもかけて『か・ボッチャ』と呼ばれています。2021 年度に始まったこの『か・ボッチャ』大会＝『か・ボッチャグランプリ』において、てるしのワークセンターは過去 3 度の優勝を誇ります。それほど事業所としてボッチャに親しんできましたが、これまで公式の用具は持っておらず、今回の贈呈は大変ありがたく、貴重な機会となりました。

贈呈式のあとは、一同で体験会にも参加。県選抜レベルの選手たちとも交流することができ、実力の違いを実感するとともに、前向きな刺激を受けるひとときとなりました。



日本オストミー協会沖縄県支部

沖縄における災害時のストーマケア体制構築に向けて

沖縄県内には約2,000人のオストメイトが暮らしていますが、海を隔てた島しょ県であるため、災害時には本土からの供給が止まる強いリスクを抱えています。ストーマ装具が届かなければ排泄処理ができなくなるため、日頃からの備えが不可欠です。

この課題に対応するため、浦添総合病院（医療者）、琉球光和・アイティーアイ（装具販売店）、日本オストミー協会沖縄県支部（当事者）が連携し、『沖縄県ストーマケア災害対策委員会』を立ち上げました。



災害対策には【自助・共助・公助】の視点が重要です。当事者が日常的に備える【自助】を呼びかけるとともに、有事の混乱に備えた組織的な連携を進めています。

本委員会では最終的に沖縄県との協定締結を目指し、供給を装具販売店、保管を自治体が担う形で、自治体レベルでの汎用ストーマ装具備蓄体制の確立に向けた話し合いを重ねています。

有事の際もすべてのオストメイトが安心して暮らせるよう、医療・事業者・当事者が一丸となって防災体制の強化に取り組んでまいります。



沖縄県身体障害者相談員連絡協議会

豊平朝清さん（視覚障害者）の体験談

令和7年10月9日の深夜、左目の激しい痛みで目が覚めた。急いで電気をつけたが光の反応が無かった。「いよいよ自分も弱視から全盲の世界に足を踏み入れることになるのか…」と思ったが、それよりもこの目の痛みをどうにかしたいと眼科を訪ねた。診断の結果“免疫低下によるブドウ膜炎”を発症していると言われ目薬を処方された。目の痛みはすぐに和らいだが、視力は戻らなかった。そんな時でも私は【自分でできることは何でもやろう】と思い、白杖を使っていろいろな所に出かけていた。その中で気付いたことは、歩道の点字ブロックや音の出る信号機がいかに頼りになり、安心した歩行に繋がっているかということであった。また、人々から思いやりのある声掛けやサポートを受けることもあった。しかし、全ての人が視覚障害者に理解ある態度を示すわけではなかった。私が体験した事例の1つを紹介する。

令和8年1月4日、私は普段から利用していたサウナ店を訪れた。受付にカードと千円札を出し「これで間違いありませんよね？」と確認の意味で問うたのだが、受付から「あなたはこれが見えないのか」と聞き返され、しばらく後に「あなたを入店させると、他のお客様にぶつかって怪我をさせる恐れがあるので（利用を）お断りします」と言われてしまった。私は「この店には何度も来たことがあり、そんなことにはならないと思う」と伝えたが聞き入れてもらえなかった。私は「これが会社の方針なのか上司に伺ってほしい」と頼んだが、翌日電話で同じ回答が返ってきた。

国連が2006年に障害者権利条約を作って以来、わが国も条約を批准し、合理的配慮の精神が社会に浸透するようになっている最中の出来事で釈然としない気持ちになった。

それからしばらく経ったころ、サウナ店から話し合いをしたいと文書が届き、4月3日に対面することになった。サウナ店からは社長を含む3名が参加し、私は改めて当時のことを伝えた。社長からは「社員教育が行き届いていなかった。大変不快な思いをさせて申し訳なかった」と謝罪をされた。

今、私の目は以前の視力に戻りつつあるが、いずれにしても誰もが暮らしやすい世の中、互いの個性を認め合う社会が1日も早く実現したら良いと、この経験を通して改めて感じた。

おきしんきょう通信

— 沖縄県身体障害者福祉協会 —

経営理念

一、利用者本位

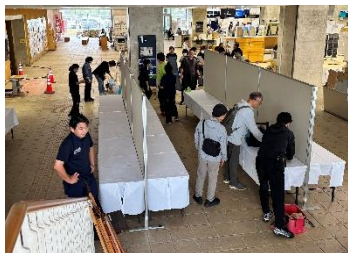
一、社会貢献

一、責任と実行

ひろがるきぼう展

令和 8 年 5 月 1 1 日 (月) ~ 1 5 日 (金)、糸満市役所 1 F ロビーを会場に標記の作品展示会を開催しました。昨年度単発で行なう予定だった展示会ですが、「また作品展示をしたい」という声があり 2 年連続の開催となりました。今回は市町村身体障害者協会から 4 団体、施設・事業所から 4 団体、その他 1 団体の合計 9 団体から約 1 0 0 作品の出展がありました。

【みんなで作る展示会】をコンセプトに、出展団体の皆さんと一緒に会場設営からスタート。テーブル、パネルの配置が終わったら、いよいよ作品展示。レイアウトも団体ごとに行なうため、間隔の取り方や立体作品の向きなど皆さん試行錯誤を重ねていました。



開催期間は出展団体からの見学者はもちろんのこと、人づてに聞いた方やモノづくりをされる方、市役所に用事があった方など、多様な方々が見学に来てくれました。



また、今回は会場である糸満市の職員の皆さんに多大なる協力をいただきました。設営・片づけ時だけでなく「こうすればもっと良くなるはず」と常に気に掛けていただけたおかげで、展示会が輪をかけて良いものになりました。皆様のご協力、ありがとうございました。

第 7 1 日本身体障害者福祉大会 せんだい大会

令和 8 年 6 月 1 7 日 (水) ~ 1 8 日 (木) に、宮城県仙台市において『第 7 1 回日本身体障害者福祉大会 せんだい大会』が開催されました。沖縄からは 7 名が参加し、当協会理事の翁長 彰 理事が表彰されました。福祉大会は大会スローガンである

- ・『私たちの活動で防災減災に積極的に関わろう』
- ・『市町村活動を中核に課題解決に取り組もう』

の 2 本の柱のもと進行され、大会宣言、大会決議が採択されました。また、意見交換会では【都道府県・市町村組織などの活性化】をテーマに東北・北海道ブロックからの事例発表をもとに議論が交わされました。どの都道府県も人材・会員の確保に困難をきたしているとの事で、個人情報保護法の観点から、いかに行政の協力を得るかが課題との事で報告がありました。

期間中、3. 1 1 東日本大震災の被災地を訪れることができ、その場で犠牲になられた方々への黙祷を捧げ、震災の悲しみと教訓を心に刻みました。この経験を通じて、防災・減災の重要性について深く学び、未来に向けて備える意識を新たにすることができました。



次年度 (2 0 2 7 年度) は愛媛県での開催予定です。多くの皆様にご参加いただけるよう取り組んで参りますのでよろしくお願いいたします。

令和 7 年 度
沖縄県身体障害者福祉協会 事業報告

当協会は、誰もが安心して暮らすことのできる共生社会の実現のため、「心のバリアフリー」の啓発・広報活動に取り組みました。

南風原町で開催した第58回沖縄県身体障害者福祉大会は多数の参加者を迎え、おきしん市場にも6カ所の福祉事業所が出展・販売を行い、充実した障害者の社会経済活動となりました。

日常生活又は社会生活上の支援を必要とする県民に対し、地域社会に貢献する取組・地域社会貢献事業に努め、令和7年度事業を実施しました。

【本部運営・啓発事業】



市町村身体障害者協会会長会議

【 沖縄県障害者社会活動推進助成事業 】



令和7年度障がい者防災ミーティング

【 沖縄県身体障害者スポーツ振興事業 】



第61回 沖縄県身体障害者スポーツ大会（アーチェリー・フライングディスク）



令和7年度沖縄県身体障害者ボッチャ教室



ちゃんぷる〜Para フェスタ 2025

【 いきいき長寿センター助成金事業 】



第54回九州身体障害者福祉大会
(北九州市) 派遣



第18回九州身体障害者
グラウンド・ゴルフ大会（大分県）派遣

【共同募金助成金事業】



第58回沖縄県身体障害者福祉大会
(南風原町開催)

【地域社会貢献事業】



卓球パレー体験への講師派遣

令和 7 年 度
沖縄県身体障害者福祉協会 決算報告

(自)令和7年4月1日 (至)令和8年3月31日 (単位:円)

貸 借 対 照 表			
借 方		貸 方	
流動資産	131,239,592	流動負債	65,817,697
固定資産	800,210,714	固定負債	159,017,600
		基本金	46,762,127
		国庫補助金等特別積立金	347,164,805
		その他の積立金	72,500,000
		次期繰越活動増減差額	240,188,077
計	931,450,306	計	931,450,306

資 金 収 支 計 算 書			
支 出		収 入	
事業活動支出	509,186,428	事業活動収入	502,718,744
施設整備等支出	102,633,891	施設整備等収入	71,343,690
その他の活動支出	3,093,400	その他の活動収入	50,726,224
当期末支払資金残高	91,145,970	前期末支払資金残高	81,271,031
計	706,059,689	計	706,059,689

事業活動計算書			
費用		収益	
サービス活動費用	522,460,552	サービス活動収益	499,409,549
サービス活動外費用	2,189,568	サービス活動外収益	3,309,195
特別費用	1,006,010	特別収益	1,619,275
その他の積立金積立額	0	前期繰越活動増減差額	211,506,188
次期繰越活動増減差額	240,188,077	その他の積立金取崩額	50,000,000
計	765,844,207	計	765,844,207

財 産 目 録			
資産・負債の内訳			
資産の部	金額	負債の部	金額
流動資産	131,239,592	流動負債	65,817,697
固定資産	800,210,714	固定負債	159,017,600
		負債合計	224,835,297
資産合計	931,450,306	差引純資産	706,615,009

※ 紙面の都合により、決算額(大区分)のみの掲載とさせていただきます。詳細につきましてはホームページより閲覧可能となっていますのでご確認ください。

第25回全国障害者スポーツ大会『青の煌めきあおもり障スポ』

九州ブロック予選会

／

ちばりよー

沖縄

沖縄県選手団の紹介

令和8年10月に青森県で開催される第25回全国障害者スポーツ大会の団体競技九州代表を決めるための予選会が九州各県で行われました。沖縄県から3障害6競技7チームを派遣し、車いすバスケットボールとバスケットボール（知的障害・女子）の2チームが優勝。全国大会の出場権を獲得いたしました。



- 【精神】 バレーボール・福岡市
6月6日(土)1回戦敗退（参加8チーム）
- 【身体】 聴覚女子バレーボール・鹿児島県
5月9日(土)4位入賞（参加7チーム）
- 【身体】 車いすバスケットボール・長崎県
5月23日(土)24日(日) 優勝（参加7チーム）
- 【知的】 サッカー・熊本県
5月9日(土)10日(日) 4位（参加8チーム）
- 【知的】 ソフトボール・沖縄県読谷村
5月9日(土) 抽選（参加3チーム）
- 梅雨入りの影響で競技不可となり抽選による代表選出となりました
- 【知的】バスケットボール・福岡県
6月6日(土)7日(日)
男子：1回戦敗退（参加8チーム）
女子：優勝（参加7チーム）



令和8年10月23日(金)～26日(月)、青森県で開催される標記大会の沖縄県代表選手が、選手選考会を経て決定しました。

	名 前	障害	参加競技	所 属
1	與儀 圭介	視覚	陸上競技	石垣市視覚障害者協会
2	今西 利恵	聴覚	陸上競技	宮古身体障害者連合会
3	新垣 大貞	肢体	陸上競技	仁愛療護園
4	吉永 安行	肢体	陸上競技	仁愛療護園
5	仲村 康貴	視覚	陸上競技	南風原町
6	高良 優太	知的	陸上競技	南風原高等支援学校
7	新里 柊弥	知的	陸上競技	琉球スポーツサポート
8	仲地 琉翔	知的	陸上競技	名護特別支援学校
9	友寄 心	知的	陸上競技	沖縄高等特別支援学校
10	コリンズ 海	知的	陸上競技	沖縄高等特別支援学校
11	上原 航	知的	陸上競技	沖縄県 ID スポーツ連絡会
12	諸見 透威	知的	陸上競技	沖縄県 ID スポーツ連絡会
13	豊平 朝清	視覚	水泳	糸満市身体障害者協会
14	大久保 篤志	視覚	水泳	寿スイミングスクール
15	島尻 桂也	知的	水泳	就労支援 B 型 美い舎
16	上原 考文	知的	水泳	就労支援 B 型 美い舎
17	片倉 政人	肢体	アーチェリー	沖縄県身体障害者アーチェリー協会
18	譜久島 環	視覚	卓球(STT)	豊見城市身体障害者福祉協会
19	屋良 陽子	肢体	一般卓球	沖縄県障害者卓球協会
20	仲宗根 慈	知的	一般卓球	沖縄高等特別支援学校
21	伊佐川 開	知的	一般卓球	名護特別支援学校
22	松縄 雄人	精神	一般卓球	琉球スポーツサポート
23	小野 雅幸	視覚	フライングディスク	沖縄県障害者フライングディスク協会
24	島袋 久美	聴覚	フライングディスク	沖縄県障害者フライングディスク協会
25	井出 祥子	肢体	フライングディスク	石垣市肢体不自由者友の会
26	矢崎 凜	知的	フライングディスク	石垣島アスリートクラブ
27	佐久本 祥寛	知的	フライングディスク	沖縄県障害者フライングディスク協会
28	平田 青	肢体	ボッチャ	沖縄県ボッチャ協会
29	兼村 星哉	肢体	ボッチャ	沖縄県ボッチャ協会
30	儀間 蓮斗	知的	ボウリング	南風原高等支援学校
31	池宮城 颯	知的	ボウリング	美咲特別支援学校
32	新垣 圭一朗	知的	ボウリング	沖縄県 ID スポーツ連絡会

個人競技に加え、左記の団体競技／車いすバスケットボール（9年ぶり）・知的女子バスケットボール（7大会連続）が派遣されます。沖縄県選手団の応援をよろしくお願いします！

ご寄付をいただきました

・令和7年12月25日、イオン琉球株式会社様より、自走式車椅子3台、ボッチャボールセット2セット、レク用ボッチャシートのご寄付がありました。



・令和8年3月5日株式会社りゅうせき様より、金1,000,000円の御寄付がありました。

・令和8年3月15日、NPO法人国際空手道連盟 極真会館沖縄県支部様より、金50,000円の御寄付がありました。



皆さまからいただいたご浄財は、身体障害者福祉活動の向上に役立て有効に使わせていただきます。誠にありがとうございます。

沖縄協【地域活動支援】の紹介

沖縄県身体障害者福祉協会では各機関（学校・行政・障害者団体など）と連携しながら、職員の専門性やノウハウを活かし、様々な取り組みや活動への協力を行なっています。

令和7年度は小学校での車いす体験やボッチャ体験、市町村身障協でのモルック教室や卓球バレー体験、卓球大会の運営補助、オンライン会議のサポート、企業主催のパラスポーツ体験会など合計28回の職員派遣を行ないました。

パラスポーツの体験を行ないたい、文化活動のヒントが欲しいなど、団体活動に悩んだ際にはぜひ一声お気軽にお声掛けください。



わったーしんかぬちゃー

★地域身障協や関係団体のご紹介★

今回はスポーツから学習、音楽まで活動もりだくさん🌸知花会長が率いる**読谷村**の紹介です。

【読谷村身体障害者協会】

（知花 光治 会長）

【会員数】 会員50名

【活動紹介】

・スポーツ交流 ・防災セミナー



・役員交流研修 ・国立劇場おきなわ観劇
・ピクニック ・読谷村福祉団体交流会



・視覚障害者部会／聴覚障害者の自主活動
・福祉教育 ・沖縄協主催事業への参加



【一言コメント】

会員数の減少や会員の高齢化等の課題を抱えていますが、4年前から視覚障害者部会が三板講習会を開催し、会員同士の交流を深めています。それが新たな会員を呼び込み三板の日の「三板コンテスト」に3年連続出場を果たしています。会員の勧誘に向けて今年度は団体の存在をアピールする広報活動に力を入れています。



【問い合わせ】

住所：読谷村字座喜味 2975 番地

（読谷村総合福祉センター内）

TEL：090-2507-0574(宮城)

FAX：098-956-0201

MAIL：kazue81611108@yahoo.co.jp